

特集3／脱炭素スマート農地研究会キックオフウェビナー

事例報告 3

一般社団法人中部ソーラーシェアリングやろまい会代表理事
北井 久美絵

電気工事店が始めた営農型太陽光発電

みなさんこんにちは、静岡県から本日ご報告させていただきます一般社団法人中部ソーラーシェアリングやろまい会代表理事の北井久美絵と申します。本日は農水省の交付金を活用した営農型太陽光発電の検討会と事例報告ということで、今まさに先程お話がありました農水省の交付金を活用した自治体浜松市さんにご協力をいただいて検討会を進めている最中です。うまくいったこと、またうまくいかなかったこともたくさんありますけれども、そのへんを共有させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

まず初めに農園の紹介と自己紹介、それから一般社団法人の活動報告、そして先程の検討会の話とそこにある課題についてお話させていただきます。初めての方が多くいらっしゃると思いますので、私の家業が電気工事店で、静岡県磐田市で父が始めましてたがいま 26 年目となります電気工事店を手伝っています。事業継承をしまして、弟が代表となりまして、今まではどちらかと言うと下請け中心だった電気工事店が太陽光のお仕事をいただいたり、自治体さんの公共工事をいただくようになりまして、少し流れが変わってきたことをきっかけに家業を手伝うことになり、そこから農園を始める大きなきっかけがあり、それを始めたのが 2020 年 9 月です。

そこから今 4 年が経ち約 1 ヘクタールくらいの荒廃地だった農地を管理しております。収量的にはなかなか満足いくものではないですが、新規就農というかたちで毎日仲間と一緒に農業を営んでいます。今回の話のメインになります

中部ソーラーシェアリングやろまい会は2022年1月に設立しました。

それまでみなさん全然違う仕事をしていたのではないかと思われるかもしれませんが、このようなきっかけがなかったらおそらく私は就農しなかったと思いますが、営農型太陽光発電と出合ったことで、このような現状があることにとても感謝しています。農園のご紹介とうことで、私どもは地域密着型の電気工事店というのは、地域のお困りごとを解決することが結構重要なお仕事のひとつとなります。たとえばひとり暮らしのお年寄りのお宅に訪問させていただくことも多くあり、電子レンジが壊れてしまったから一緒に機種を選んだり、電化するためにIHクッキングヒーターの使い方をご説明したり、そういった細かいフォローをすることがよくあります。その中で大変お世話になっている方が孤独死するというのを私自身初めて経験しました。

そこで、地域には自治体や敬老会などいろいろな組織がある中で、人と人のつながりはそういった自治体だけのつながりではなく、自らそれぞれが役割や生きがいを持って関係を作ることが必要なのではないかと思うきっかけになりまして、そこからママ友、同級生などのよいご縁をいただきまして、現状約1ヘクタールの農地を利用権設定させていただいて営農をしています。少し異例の関わり方となるものですから、地域の情報誌などにも取材をいただくこともときどきありまして、これまで農業に携わらない仕事でしたが、今は新規就農ということで荒廃地を再生してえごまとレモンを栽培しています。

えごまは磐田市のJAさんにえごまの部農会がありまして、100人ほどのえごまを育てている農家さん、主にご自分で消費する方が多いですが、私たちは販売というかたちでそれぞれお世話になっている方々や地域の方々にご購入していただきました。レモンは今400本ほど育てておりまして、来年再来年と少しずつ収量が増えていくのを楽しみに、あまり農薬などを使わない方法で育てています。先程稲作のオーナー制度のお話を聞いて素晴らしいと思いました。私どももレモンのオーナー制度を今年から開始したいと思い、まだ計画なので募集はしていませんが、遠くからもレモンを育てているような気持ちになってもらい、関わっていただきたい。農園に足を運んでいただきたいという

思いでオーナー制度を開始したいと考えております。

社団法人の設立

続きまして社団法人の設立のお話に移ります。実は営農型太陽光発電は当初磐田くすのき農園を始める時からとても興味があり、やってみたい気持ちがあったのですが、やはり農業の素人で新規就農の方にとってはハードルが高いのが営農型太陽光発電という認識がありました。なぜなら土地を地権者さん営農者さん発電事業者さんと需要家さんや仲介をしてくださる新電力さんといった多くの方々との意見の合意がなければ形にならない、すごくコネクションが必要となるものが営農型太陽光発電だと思います。

それがうまくできない中ですがハードルが高いと感じていた時に、2020年9月8日に浜松市でソーラーシェアリングセミナーを開催できることになりました。この時日本PVプランナー協会さんの主催で浜松市さんとの共催ということで当時の経済産業省さん環境省さん農水省さんに基調講演に来ていただき大変貴重な、特に市議会議員さんや農業者さんJAさんなどにご参加いただき、なかなか地方では聞けないようなお話が聞けたということで私自身もたいへんありがたい経験となりました。

これをきっかけにEPC5社で2022年1月11日に一般社団法人中部ソーラーシェアリングやろまい会を設立いたしました。愛知、岐阜、静岡のそれぞれ新電力や農業を営む会社が志し高くそれぞれの地域に応援してもらえる子供たちに自信を持って引き継ぐことができるソーラーシェアリングを推進していこうということで設立しました。そのメンバーがこちらの理事のみなさんです。本日司会進行をしてくださっている馬上さんに顧問をお願いしていただき、それ以外に愛知県豊田市の株式会社松原電機さんの松原さんには専務理事ということで特に新電力の観点からアドバイスをいただいています。

また、静岡県の掛川市の株式会社MGプランさんは柿やレモンのソーラーシェアリングを数多く、既に100件以上の施行事例があり、岐阜県中津川市の合同会社ネクサスさんの佐藤社長のソーラーシェアリングはさつまいもがメイ

り、何のためにそれを増やすのかとか、担当の方がなかなかソーラーシェアリングに対してよいイメージを持っていなかったり、現状でももしかしたらあるかもしれません。

農業とエネルギーの観点ではやはり立場が違いますので、地域の課題を掘り起こすことがなかなか難しい現状で、このようなセミナーを各地で開催し、初回は磐田市で次に去年は浜松市で同じようなセミナーを開催させていただきまして、今回こちらのみどりの食料システム戦略推進交付金のうち、地域循環型エネルギーシステム構築の営農型太陽光発電のモデル的取り組み支援の交付金をいただけることになりました。今回は浜松市さんのカーボンニュートラル推進本部、そして農業振興課さん、浜松市内の事業者さんとして須山建設さん、また浜松新電力さんそして有識者としてやろまい会の顧問でもあります千葉エコ・エネルギーの馬上さん、そして認定農業者さんで浜松市内で新規就農の応援と活動をされている株式会社 A.A.A さん、それぞれ違った立場の方達にご参加いただきまして、私達やろまい会が事務局というかたちで今回の申請をしまして、何年もかかり挑戦しましてなんとか採択をいただきまして現在進行中です。

農業を主に考える営農型太陽光発電を増やすべき

この検討会をなぜ行うのかとよく聞かれます。すでに浜松市はすごくたくさん営農型太陽光発電があるのではないかと、確かに140件以上の実績が浜松市内にはあります。そのうち軸がやはり多い事例で、それ以外にもお茶や果樹系も少しあるということをお聞きしていますが、ではこの先本当に今事例が多いものが増えていくべきなのでしょうかとこのところを私達やろまい会としては、やはり農業を主に考える営農型太陽光発電というものを増やしていくべきではないか、また荒廃農地これから先増えていくであろうこういったところを活用するモデルや発電設備を農業に活用する方法などこれまで別の立場でいろいろな人たちが関わって検討する機会がなかったという課題意識と、そのためいろいろな立場の方たちにあえて参加をお願いすることにしました。

その中ではじめに私たちがぶつかった課題はそれぞれの立場によって、不適

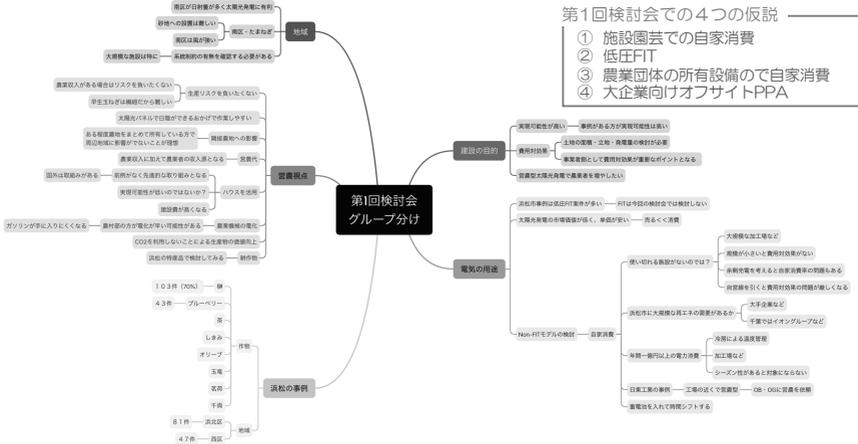
切な案件というところの認識が違う、つまり浜松市において営農型太陽光発電の認定の取り消しなどが実際に行われたわけではないから妥当なものしかないのではないかというような見方もできるということです。やはり営農を主とするのか、発電を主とするのか、それぞれの設備によって建設の設計も違います。作物の選定によって遮光率や営農の方法も違います。170件全てが優良モデルかということを私達は地元をぐるぐる回って見てみるとやはり首を傾げたいくなるような、たとえば浜名湖周辺とその時期によっては少し水が発生してしまっ、かにかが歩いている案件などを見つけることができました。

そういった農地での営農は、とてもハードルが高いですしそれを出荷することは大変難しいことではないかと。それなら作物を換えるとか地植えを止めて栽培方法をポットに換えるとかするなどの指導をする必要があるのではないかとということも疑問はあったのですが、それぞれの関わり方によって考え方が違うということが初めの課題だと感じました。どのような目的で検討会をスタートするのか、ではどのようなモデルケースを考えるのか、ここを決めるために第1回が白熱した議論などごちゃごちゃしてしまうこともありました。

やはり営農のための太陽光発電であれば、営農で使う電気を営農設備で作るべきではないかというご意見もありました。いってみればオンサイトPPAのような活用方法が最もよいのではないかとか、何を以って最重要事項とするかということの位置づけがとても難しかったです。

私たちはこの3つをクリアする案件をモデル化するための検討をすることにしました。1つ目は浜松市が掲げるカーボンニュートラルに最大に貢献すること、そして2番目はモデル化、波及性。やはりやろまい会だからできたとかEPCだからできたというわけではなく、それぞれいろいろな立場の方たちができるようなモデルを作ること。第3に農業の課題を解決することができることを今回の検討会のメインの重要事項として検討を進めることとしました。そこですごく難しくなってきたのが、スケジュールがとても短いということでした。11月の初めからスタートできたのですが、3回の検討会と3回の視察会を予定していました。

【図2】 第1回検討会の内容まとめ



ただ、先ほども申し上げたようにそれぞれ立場が違い、考えている問題や課題も全く違う中で、その3回の検討会で話をまとめることはとても難しいことで、現状第2回の検討会が終わったところで来週は第3回目の検討会になりますが、そこに向けてそれぞれのヒアリングとこれまでの議論のまとめを今事務局全員で行っているところです。

【図2】は内部の資料になりますが、特に1回目がすごくいろいろな話が出て、たとえばどのような地域でやるべきなのか、浜松市はすごく広い地域で、政令指定都市ですし山間部は林業がすごく盛んですし、南の方は浜名湖や遠州灘の方などはたまねぎが全国的にも有名な地域です。また太陽光発電導入日本一という素晴らしい実績もありますので、どのような地域、南区なのか西区なのか北区なのかという議論もありましたし、営農の観点では農業の機械化に最大に貢献するべきではないかとか、生産のリスクを負いたくないからなるべくリスクが低いものを選ぶべきではないかとか、細部に亘り議論を重ねて、1回目は終了となりました。

検討会の成果

その中でやはり施設園芸であるハウスと自家消費ができるようなモデルは、とても有効ではないかとか今まである低圧 FIT をもう一度考え直すことでもよいのではないかとか、農業団体所有の設備に自家消費してもらうのはどうかとか、大規模な大企業向けのオフサイト PPA、今主流になっているようなものをモデルケースに考えるべきではないかとか、ここには書いていませんが FIP のソーラーシェアリング、またオフサイト PPA、ノンフィットのモデルケースをもう少し波及性が高かたちでモデル化するべきではないかなど仮説としては5個ありまして、それを来週ひとつの私達の検討会のモデルとして結果をまとめるという流れになっています。

今年度の成果を1冊の本にまとめまして、来年度それを検証するというところで実際浜松市内のプラントに営農型太陽光発電を設置して、その事業性や営農者さんの新規就農する人たちにとっても有益となるような設備ができるのかということまで検討していきたいと考えています。

まとめとなりますが、現場担当の方々がそれぞれ考える課題を共有することが難しかった。つまり行政は縦割りで。そういった方達の考え方によってやはりカーボンニュートラルは推進すべき、太陽光発電を新規に設置するところがないのであれば農地も検討すべきであるという観点もありながら、やはり農業サイドとしては農業を守っていかなければいけない、そしてその申請が出たからといって同じものなら OK、また違うものを NG とする審査する立場として何かを推進するというふうに決めることが難しい。いろいろな立場の人たちの考えを聞けるよい検討会になったと思います。また、制度の変更が多い先日もパブコメがありました。自治体の独自ルールもすごく多くあります。そのようなところを県に上げて、ひとつ窓口として受け入れてくれるところがあると、すごくありがたいというパブコメのコメントも提出しました。

また今回の検討会で、農家さんサイドからするとやはりハウスなどはとても高価で数千万円という初期投資が必要になるので、営農型太陽光発電の架台をうまくハウスの代わりにしてビニールを張らせていただいで、初めから安定し

たハウスのような設備で就農できるようなメリットがあれば、新規就農者も安心してできるのではないかというような意見もありました。今回このような交付金を活用して検討する機会をいただけて、私達やろまい会としてもこれから推進すべきモデルについて真剣に議論を重ねることができたことに大変感謝をしています。以上で私の発表とさせていただきます、ありがとうございました。

(きたい くみえ)